

大きさや毛色は？

子どもは白い縞模様があり、ウリボウと呼ばれます。縞模様は生まれて3~6か月で消えてしまい、大人になると茶褐色のかたい毛におおわれます。おとなのイノシシは体重60~100kgくらいになります。



何の仲間？

イノシシは4つの蹄（ひづめ）をもっています。数が偶数なので偶蹄目（ぐうていもく）という名のグループに分類されます。シカ、カモシカ、ウシ、ヒツジ、ヤギも同じ偶蹄目です。

[足跡]

前あし

後ろあし



副蹄 主蹄

チョキ型の主蹄（しゅてい）

深い足跡では、その後ろに小さい副蹄（ふくてい）が見える

イノシシとつきあう

むかしから、イノシシは農地を荒らす「害獣」でした。シシ垣をつくって侵入を防ぎ、わなや銃で捕獲しながら被害を防いできました。でも、獲られたイノシシは食料となって貴重な「山のめぐみ」を与えてくれました。

現在でも、イノシシによる農作物被害は深刻です。分布が広がり市街地にも出没するようになりました。一方、イノシシを新しい資源（ジビエ）として利用する仕組みも始まりました。

イノシシの生活を科学的に明らかにし、先人の知恵と経験を活かしながら、よりよいつきあい方を考えることが大事になってきました。



国立研究開発法人 森林研究・整備機構
森林総合研究所 多摩森林科学園

〒193-0843 東京都八王子市甘里町1833-81
TEL 042-661-0200 (森の科学館) FAX 042-661-5241
ホームページ <http://www.ffpri-tmk.affrc.go.jp/>

科学園の森には
イノシシが
すんでいます



イノシシって どんな動物？



ブタとは ちがうの？

イノシシはヨーロッパからアジアにかけて広く生息し、イノシシが家畜化されてブタになりました。もともと同じ種です。イノシシの耳はピンと立ち、オスの成獣は大きな犬歯（きば）を持ち、尾はまっすぐで何かに警戒しているときは旗のように立ちます。

イノシシの尾はまっすぐですが、ブタはクルンと巻いています。

イノシシの尾

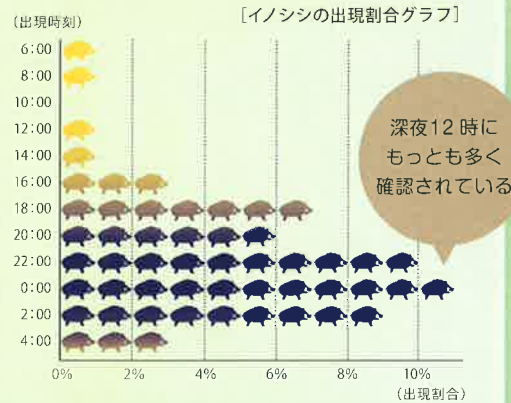
ブタの尾

いつ活動するの？

イノシシは夜行性と考えられてきましたが、神戸の六甲山などでは日中でも頻繁に観察されています。活動時間帯が昼型か夜型かは、習性というより、周囲の状況への適応のようです。

科学園では...

科学園のイノシシは、季節や公開エリアの内外によらず、日中よりは夜間に活動することが分かってきました。



何を食べているの？

[下顎]



植物の根っこ、ドングリやカキなどの種子や果実、葉、ミミズ、昆虫類なども食べる雑食性です。土の中から食べ物を掘り出しやすいように、下の門歯（前歯）は前に大きく突き出てスコップのような形をしています。

広がる分布

本州、四国、九州にはニホンイノシシ、奄美大島、沖縄島、石垣島、西表島にはリュウキュウイノシシが生息しています。北海道には自然分布していません。分布域は、この70年の間に約3倍に広がりました。

科学園では...

1999年以降イノシシを見かけるようになり、2010年頃から園内でもっとも多く見られる哺乳類となりました。

イノシシの社会生活

春に出産し、秋ごろまで母子はともに活動します。母系社会で、メスは生まれた群れの近くに留まる一方、オスは次第に群れから離れます。大きなおとなのオスは単独で行動しています。

科学園では...

4月から6月ごろ、5~8匹の子を連れた母イノシシたちの群れを見かけます。



科学園の森で見られる イノシシの痕跡MAP

科学園の森には、いろいろな種類の植物がありますが、
その環境に惹かれ様々な動物が集まってきます。
遊歩道付近に見られるイノシシの「痕跡」を探してみましょう。



ヌタ場

泥浴びはイノシシ流お手入れ
イノシシは水場が好きです。科学園の沢沿いをのぞいてみると、イノシシが泥浴びをしたあとがあります。お風呂のようにしばらく浸かっているときもありますし、泥水の中でゴロゴロと転がまわったりします。「ヌタ場」と呼ばれるこうした水浴び場で、イノシシは体表についたダニやノミなどの寄生虫を落とすと言われています。



上：ヌタ場
下：泥浴びのあと、決まった場所にお尻や肩などをこすりつけて掻きます。ヌタ場のそばの切り株やベンチでは、泥がたくさんこびりついています。



フン

イノシシうんちはシワシワうんち
イノシシのフンは黒っぽくてシワがある独特の形です。フンの中身を見てみると、季節によってはドングリの殻、タケノコの皮、ササの葉などが未消化の状態が出てきているときもあります。特定の場所で決まってフンをするわけではなく、歩きながらポロポロと出しますが、フンが比較的多くみられる場所はあるようです。



食べあと

ミミズや根を探して土を掘る
土を掘り返しながら歩き、ミミズなどの土壌動物をさがして食べます。下の門歯が前に出ていてスコップのように泥を掘りながら進みます。特にミミズが多い道脇の柔らかな土には、耕したようなイノシシの掘り返し跡が続いています。また、ヤマイモやユリ根など、栄養価が高い根茎も大好物ですから、大きな深い穴を掘って食べます。



上：ミミズなどを探して歩道脇の土を掘り返します。
下：大好物のヤマユリの根。冬に球根(ユリ根)を食べます。



イノシシ対策

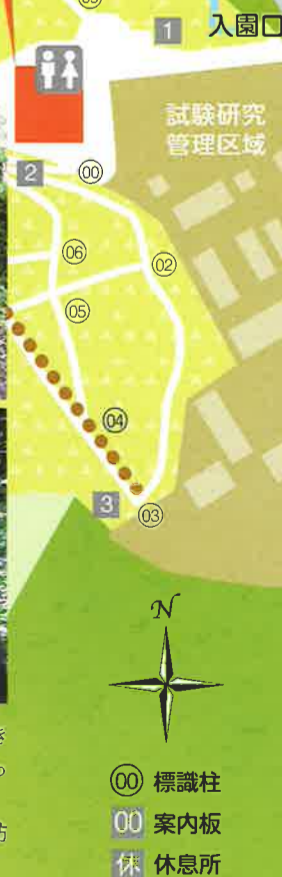
防護柵や箱罾で科学園を守る

科学園では、植物や来園者の安全を守るために、イノシシの侵入を防ぐための防護柵を設置しています。しかし、イノシシは水場や餌を求め、柵を壊しては侵入を繰り返します。私たちも根気強く、柵の修理を繰り返し、イノシシが侵入しにくい場所となるように努めています。古くから山里ではイノシシから農地を守るために、「ししがき」と呼ばれる垣根を作ってきました。科学園の防護柵も、この「ししがき」と同じです。



上：公開区域に入ってきたイノシシは許可をとって捕獲を試みています。
下：侵入防止柵。ウリ坊も入れません。

森の科学館



- 00 標識柱
- 00 案内板
- 休 休息所

0 100m

イノシシに出会った時は、急に走ったり騒いだりせず、静かにその場を離れてください。